

○「飲用井戸等衛生対策要領の留意事項について」の一部改正等について

(平成 16 年 1 月 22 日)

(健水発第 0122001 号)

(各都道府県・政令市・特別区水道行政担当部(局)長あて厚生労働省健康局水道課長通知)

飲用井戸等衛生対策要領の改正については、「飲用井戸等衛生対策要領の改正について」(平成 16 年 1 月 22 日付け健発第 0122004 号厚生労働省健康局長通知)により通知されたところであるが、当該改正に係る留意事項をとりまとめるとともに、厚生省生活衛生局水道環境部水道整備課長通知「飲用井戸等衛生対策要領の留意事項について」(昭和 62 年 1 月 29 日付け衛水第 13 号)を改正したので通知する。

記

第 1 「飲用井戸等衛生対策要領」の改正に係る留意事項について

1 飲用井戸等の衛生対策に係る措置の充実について

最近においても、飲用井戸等の不適切な管理等の事例がみられることを踏まえ、下記の通り、必要な改正を行ったこと。

(1) 都道府県等が行う飲用井戸等の衛生確保に係る啓発のための必要な措置の充実

都道府県等が行う、飲用井戸等の衛生確保に係る啓発のための必要な措置の対象について、従前の使用者のほか、設置者、管理者等を追加したこと。

(2) 飲用井戸に係る定期水質検査項目の改正等

飲用井戸に係る定期の水質検査について、従前の項目等に加え、その他水質基準項目のうち周辺の水質検査結果等から判断して検査が必要な項目についても実施するものとしたこと。

また、これに伴い、飲用井戸の設置者等による検査実施項目の選定に資するため、都道府県等は、定期的に検査を行うべき項目を定めて周知する等、必要な措置を講ずるものとしたこと。

なお、この場合において、水質検査の実施等について実効ある指導を行うため、飲用井戸の設置者等に対して、当該検査等の水質検査結果について、一定期間保存するよう協力を求めることが効果的であると考えられること。

(3) 一般飲用井戸における水質検査実施の強化

一般飲用井戸のうち、設置者が専ら自己の居住の用に供する住宅のみに飲用水を供給するために設置するもの以外については、業務用飲用井戸と同様に水質検査を行うものとしたこと。

(4) 環境行政部局との連携の強化

従前の有機溶剤による汚染だけでなく、有害物質等による汚染が判明した場合においても、環境行政部局と連携して、汚染経路の把握や事業場における当該物質等の使用及び処分に係る適正化の指導等が行われるように努めるものとしたこと。

2 水道法の一部改正及び水道水質基準の改正に伴う改正について

公益法人改革に係る改革を推進するための厚生労働省関係の法律の整備に関する法律(平成15年法律第102号)の施行に伴い水道法(昭和32年法律第177号)が一部改正されること及び水質基準に関する省令(平成15年厚生労働省令第101号)が施行されることを踏まえ、飲用井戸の水質検査項目について必要な改正を行ったこと。

第2 「飲用井戸等衛生対策要領の留意事項について」の改正について

「飲用井戸等衛生対策要領の留意事項について」を別紙新旧対照表の通り改正すること。

別紙

飲用井戸等衛生対策要領の留意事項 新旧対照

新	旧
<p>○飲用井戸等衛生対策要領の留意事項について</p> <p style="text-align: center;">(昭和 62 年 1 月 29 日)</p> <p style="text-align: center;">(衛水第 13 号)</p> <p>(厚生省生活衛生局水道環境部水道整備課長通知)</p> <p>近年、多種類にわたる有害物質等による地下水汚染の拡大や小規模受水槽を持つ施設の不適切な管理等がみられ、飲用水の衛生確保に支障をきたすことが危惧されることにかんがみ、昭和 62 年 1 月 29 日衛水第 12 号厚生省生活衛生局長通知により、飲用に供する井戸等及び水道法等の規制対象とならない水道の衛生確保対策が指示されたところであるが、なお、下記事項に留意の上、その実施及び指導に遺憾なきを期されたい。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 実施主体</p> <p>飲用井戸等衛生対策要領(以下「要領」という。)に基づく対策は、原則として、水道法に基づく簡易専用水道に係る権限と同様、都道府県、保健所を設置する市又は特別区が管下市町村の協力を得て実施するものとしたこと。ただし、都道府県にあつては、管下市町村において既に条例等に基づき対策が行われている場合、対策を実施するための体制が十分整備される場合等、市町村において対策を実施する方がより適切であると判断される場合にあつては、当該市町村と協議し、合意の上</p>	<p>○飲用井戸等衛生対策要領の留意事項について</p> <p style="text-align: center;">(昭和 62 年 1 月 29 日)</p> <p style="text-align: center;">(衛水第 13 号)</p> <p>(厚生省生活衛生局水道環境部水道整備課長通知)</p> <p>近年、多種類にわたる有害物質等による地下水汚染の拡大や小規模受水槽を持つ施設の不適切な管理等がみられ、飲用水の衛生確保に支障をきたすことが危惧されることにかんがみ、昭和 62 年 1 月 29 日衛水第 12 号厚生省生活衛生局長通知により、飲用に供する井戸等及び水道法等の規制対象とならない水道の衛生確保対策が指示されたところであるが、なお、下記事項に留意の上、その実施及び指導に遺憾なきを期されたい。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 実施主体</p> <p>飲用井戸等衛生対策要領(以下「要領」という。)に基づく対策は、原則として、水道法に基づく簡易専用水道に係る権限と同様、都道府県、保健所を設置する市又は特別区が管下市町村の協力を得て実施するものとしたこと。ただし、都道府県にあつては、管下市町村において既に条例等に基づき対策が行われている場合、対策を実施するための体制が十分整備される場合等、市町村において対策を実施する方がより適切であると判断される場合にあつては、当該市町村と協議し、合意の上</p>

<p>で、市町村において都道府</p> <p>県と連携を図りつつ実施しても差し支えないこと。</p> <p>2 対象施設</p> <p>(1) 一般飲用井戸及び業務用飲用井戸には、地下水を利用する井戸のほか、表流水及び湧水を水源として利用する施設を含み、要領に基づく対策にはなじまない天水を利用する施設は含まないものであること。</p> <p>(2) 業務用飲用井戸のうち、旅館及び公衆浴場に設置されている施設については、別途指示がなされる予定であるので、要領の対象としないこと。</p> <p>3 衛生確保対策</p> <p>(1) 都道府県等は、早急に体制を整備し、要領に基づく対策を実施する必要があるが、貴管下の地下水汚染の状況、小規模受水槽水道に対する規制、指導の実施状況等を勘案し、優先順位の高いものから段階的に実施しても差し支えないこと。</p> <p>(2) 飲用井戸等の管理については、設置者等に対し、みだりに人畜が当該施設及びその周辺に立ち入って水が汚染されるのを防止するため、必要に応じ、当該施設にかぎをかけ、さくを設ける等適切な措置を講ずるよう指導すること。</p> <p>また、一般飲用井戸及び業務用飲用井戸の給水開始前の水質検査については、<u>クロロ酢酸、クロロホルム、ジクロロ酢酸、ジブロモクロロメタン、臭素酸、総トリハロメタン、トリクロロ酢酸、ブロモジクロロメタン、ブロモホルム及びホルムアルデヒド</u>（以下「消毒副生成物」という。）を除き（<u>ただし、当該飲</u></p>	<p>で、市町村において都道府</p> <p>県と連携を図りつつ実施しても差し支えないこと。</p> <p>2 対象施設</p> <p>(1) 一般飲用井戸及び業務用飲用井戸には、地下水を利用する井戸のほか、表流水及び湧水を水源として利用する施設を含み、要領に基づく対策にはなじまない天水を利用する施設は含まないものであること。</p> <p>(2) 業務用飲用井戸のうち、旅館及び公衆浴場に設置されている施設については、別途指示がなされる予定であるので、要領の対象としないこと。</p> <p>3 衛生確保対策</p> <p>(1) 都道府県等は、早急に体制を整備し、要領に基づく対策を実施する必要があるが、貴管下の地下水汚染の状況、小規模受水槽水道に対する規制、指導の実施状況等を勘案し、優先順位の高いものから段階的に実施しても差し支えないこと。</p> <p>(2) 飲用井戸等の管理については、設置者等に対し、みだりに人畜が当該施設及びその周辺に立ち入って水が汚染されるのを防止するため、必要に応じ、当該施設にかぎをかけ、さくを設ける等適切な措置を講ずるよう指導すること。</p> <p>また、一般飲用井戸及び業務用飲用井戸の給水開始前の水質検査については、<u>総トリハロメタン、クロロホルム、ジブロモクロロメタン、ブロモジクロロメタン及びブロモホルム</u>（以下「消毒副生成物」という。）を除き、水質基準の定められている全項目について検査を受けることとし、消毒を行っている場合にあつては、消毒の効果及び消毒副生</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

用井戸周辺の地下水等よりこれらの物質が検出されている場合を除く。）、水質基準の定められている全項目（ただし、水源が湖沼等水が停滞しやすい表流水でない場合は、(4S, 4aS, 8aR)―オクタヒドロ―4, 8a―ジメチルナフタレン―4a(2H)―オール(別名 ジェオスミン)及び 1, 2, 7, 7―テトラメチルビシクロ[2, 2, 1]ヘプタン―2―オール(別名 2―メチルイソボルネオール)の検査を省略することができる。）について検査を受けることとし、消毒を行っている場合にあつては、消毒の効果及び消毒副生成物についても検査を行うよう指導すること。

(3) 汚染が判明した場合、設置者等は、直ちに都道府県等の保健所又は市町村へ連絡し、指示を受けることとしているが、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン等に代表される有機溶剤 その他有害物質 に係る水質検査の結果、水質基準以下であつても検出された場合には、連絡をとるよう設置者等を指導されたいこと。

(4) 汚染された飲用井戸等に対する措置に関して、汚染物質の使用及び処分については、関係行政機関によりその適正化の指導等がなされているところであり、これらに基づき適切な措置が講じられるよう担当部局との調整に努められたいこと。

なお、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン等に代表される有機溶剤等により家庭用井戸が汚染された水道未普及地域において、早急に水道施設を整備し、安全な飲料水を確保する必要性から、簡易水道の補助制度に特例措置を設けているので、本制度も活用の上、管下の水道の布設、普及に努められたいこと。

成物についても行うよう指導すること。

(3) 汚染が判明した場合、設置者等は、直ちに都道府県等の保健所又は市町村へ連絡し、指示を受けることとしているが、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1, 1, 1―トリクロロエタン 等に代表される有機溶剤に係る水質検査の結果、水質基準以下であつても検出された場合には、連絡をとるよう設置者等を指導されたいこと。

(4) 汚染された飲用井戸等に対する措置に関して、汚染物質の使用及び処分については、関係行政機関によりその適正化の指導等がなされているところであり、これらに基づき適切な措置が講じられるよう担当部局との調整に努められたいこと。

なお、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1, 1, 1―トリクロロエタン 等に代表される有機溶剤等により家庭用井戸が汚染された水道未普及地域において、早急に水道施設を整備し、安全な飲料水を確保する必要性から、簡易水道の補助制度に特例措置を設けているので、本制度も活用の上、管下の水道の布設、普及に努められたいこと。

4 その他

要領に基づく対策の担当部(局)及び課名を、
昭和 62 年 3 月 31 日までに本職あて報告されたい
こと。